SBI Liquidity Market

オプショントレードにも、スポットトレードにも生かせる！

Dailyオプションレポート

2020年7月6日(月)

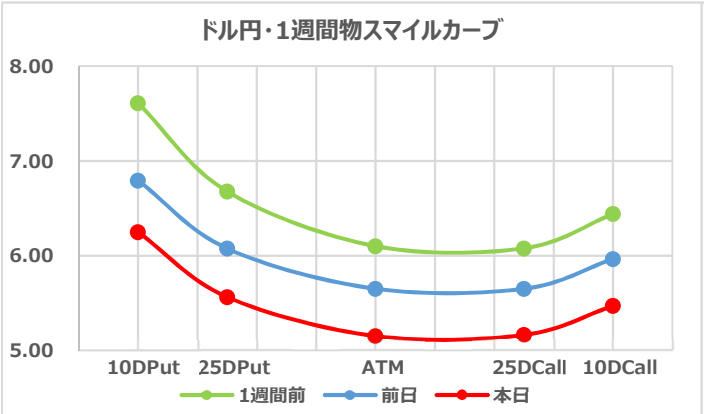
ドル円ボラティリティ情報

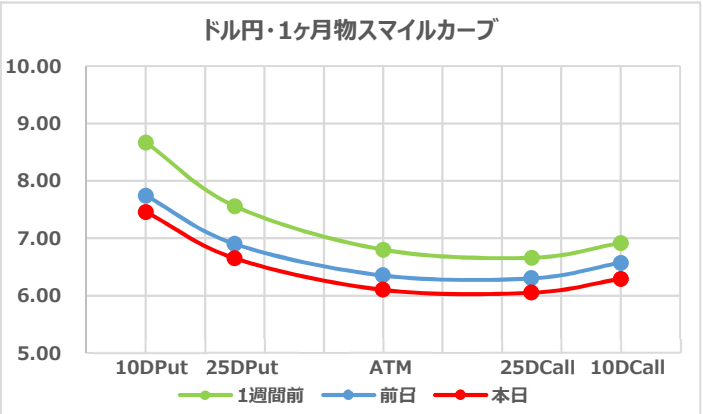
ドル円・スマイルカーブ　←ドル安のストライク　ドル高のストライク→

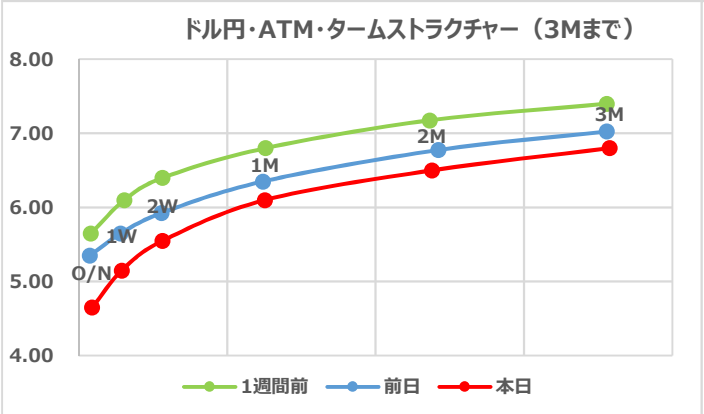
期日	対象	10D Put	25D Put	ATM	25D Call	10D Call
1W	本日	6.25%	5.56%	5.15%	5.16%	5.47%
	前日	6.79%	6.08%	5.65%	5.65%	5.97%
	差分	⇩ 0.54%	⇩ 0.51%	⇩ 0.50%	⇩ 0.49%	⇩ 0.50%
1M	本日	7.46%	6.65%	6.10%	6.05%	6.29%
	前日	7.75%	6.90%	6.35%	6.30%	6.58%
	差分	⇩ 0.28%	⇩ 0.25%	⇩ 0.25%	⇩ 0.25%	⇩ 0.28%
3M	本日	9.25%	7.83%	6.80%	6.43%	6.48%
	前日	9.52%	8.06%	7.03%	6.66%	6.75%
	差分	⇩ 0.27%	⇩ 0.23%	⇩ 0.23%	⇩ 0.23%	⇩ 0.27%

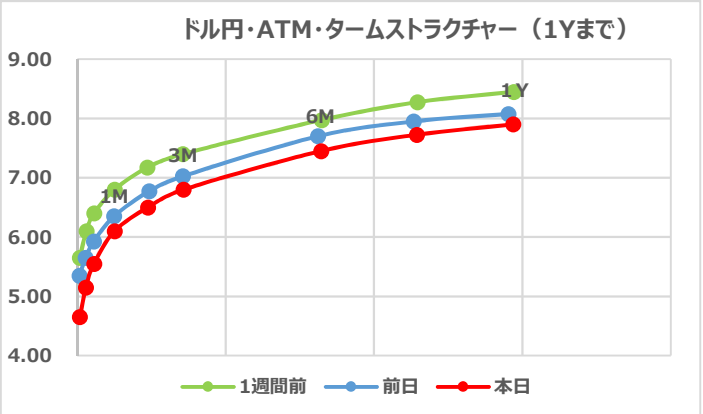
ドル円・タームストラクチャー

期日	本日	前日	差分
ON	4.65%	5.35%	⇩ 0.70%
1W	5.15%	5.65%	⇩ 0.50%
2W	5.55%	5.93%	⇩ 0.38%
1M	6.10%	6.35%	⇩ 0.25%
2M	6.50%	6.78%	⇩ 0.28%
3M	6.80%	7.03%	⇩ 0.23%
6M	7.45%	7.70%	⇩ 0.25%
9M	7.73%	7.95%	⇩ 0.23%
1Y	7.90%	8.08%	⇩ 0.17%





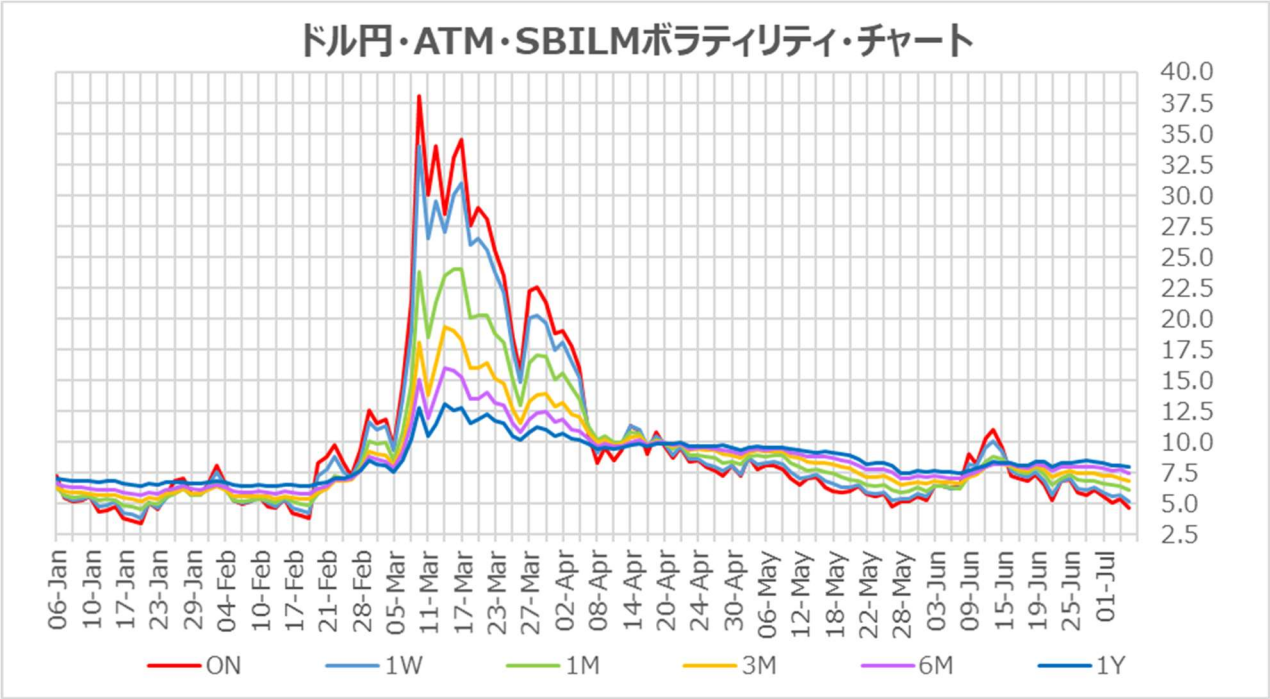




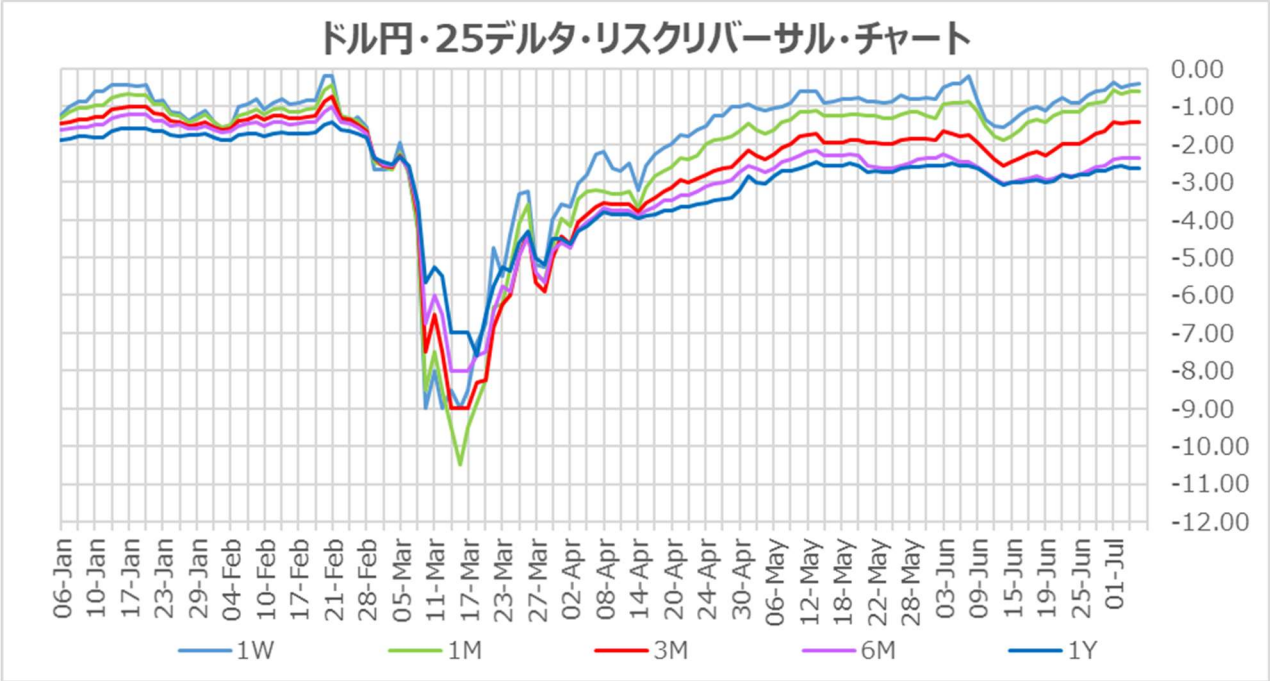
● SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた、**イベント・プレミアムを加味した実質的なインプライド・ボラティリティ(SBILMボラティリティ)**のスマイルカーブ、及び、タームストラクチャーを記載しています。SBILMボラティリティは実際にオプション市場で取引されるインプライド・ボラティリティとは値が異なりますが、日付やイベント等に左右されず、安定的にボラティリティの数値同士を比較することができるSBIリクイディティ・マーケット独自のボラティリティ指標です。

ドル円ボラティリティとリスクリバーサルのチャート

ドル円・ATM・ボラティリティ・チャート



ドル円・25デルタ・リスクリバーサル・チャート



● **リスクリバーサル** -コールとプットのインプライド・ボラティリティの値には市場の需給や相場観を反映して価格差が発生する。その価格差の指標として**一定のデルタのコール・ボラティリティからプット・ボラティリティを引いた差分**をリスクリバーサルと呼ぶ。例えば、リスクリバーサルが下方向に動いたとすると、相対的にドルプットのボラティリティが上昇しており、オプション市場参加者はドル円スポットが下落した際に値幅が出やすくなったと考えていることを表している。

イベント・プレミアム情報と行使期日が近い大口オプション情報

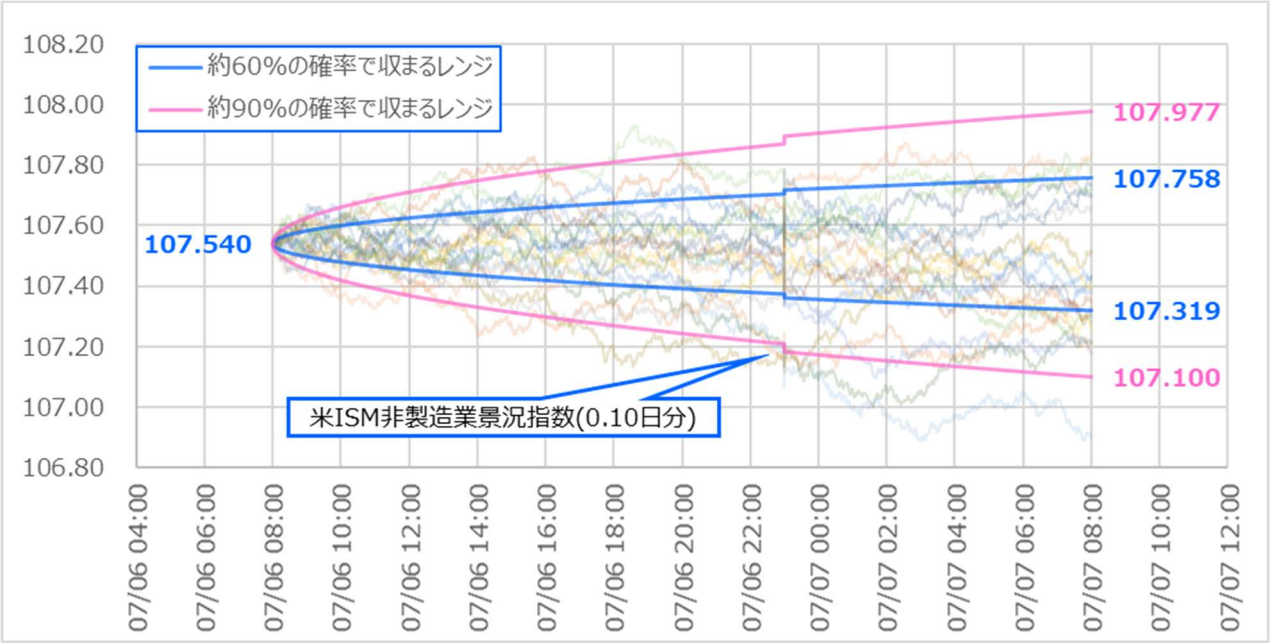
7月6日(月)			7月7日(火)			7月8日(水)		
イベント・プレミアム			イベント・プレミアム			イベント・プレミアム		
USD	ISM非製造業景況指数	0.10日	AUD	政策金利	0.75日			
大口オプションのストライク・取引量			大口オプションのストライク・取引量			大口オプションのストライク・取引量		
USD JPY	109.35	1,300本	EUR USD	1.1345	1,000本	USD JPY	107.50	1,600本
						AUD JPY	76.00	1,100本
						EUR USD	1.1300	1,000本
						USD MXN	18.2500	1,200本

7月9日(木)			7月10日(金)			7月11～12日(週末)		
イベント・プレミアム			イベント・プレミアム			イベント・プレミアム		
大口オプションのストライク・取引量			大口オプションのストライク・取引量			大口オプションのストライク・取引量		
USD JPY	107.50	1,000本	USD HKD	7.7750	1,500本			
CAD JPY	80.35	1,300本	USD HKD	7.8150	2,700本			
USD CAD	1.3800	1,400本	USD HKD	7.8500	1,600本			

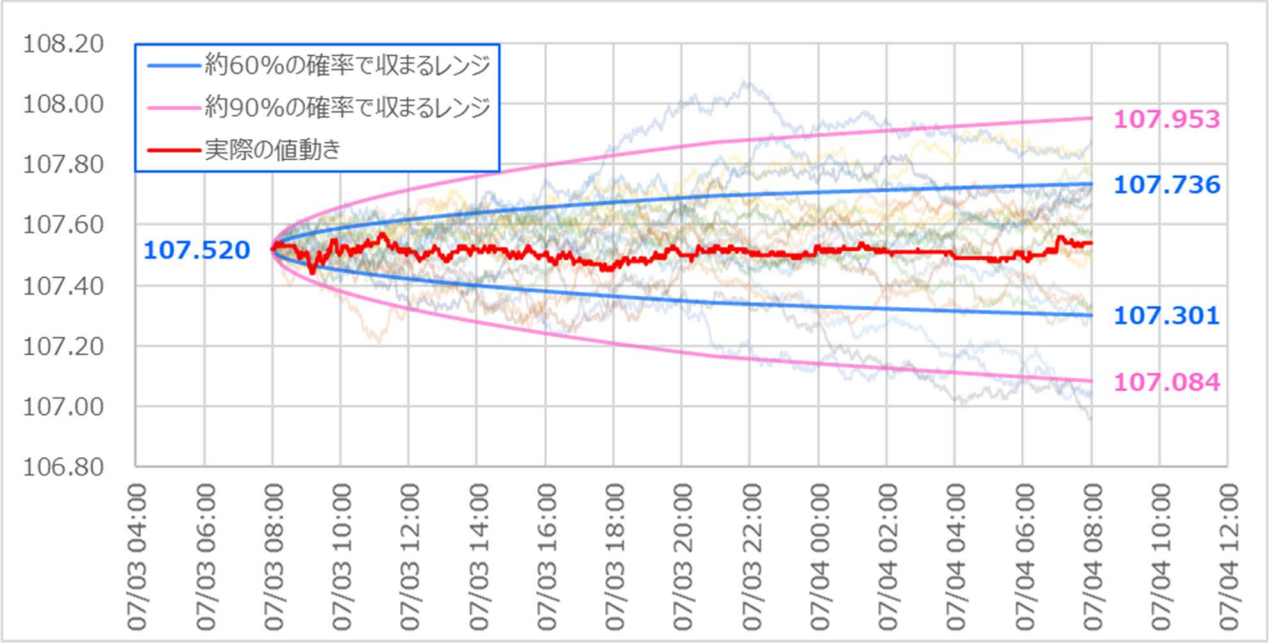
- SBIリクイディティ・マーケットでは重要イベントのイベント・プレミアムを日数ベースで管理しています。例えばある日本のイベントにおけるイベント・プレミアムが0.5日分の場合、そのイベントにおいて日本円を含む通貨ペアで0.5日分の値動きが出ると予想されている事を表現しています。
- オプション市場で観測されている大口のストライク、及び、取引量情報。オプション市場参加者による取引の影響でスポットはオプションのカットタイムにかけて大口足に引き寄せられやすいと言われている。1本＝1百万通貨単位。
（スポットの値動きを保証するものではありません）
- カットタイムは東京15時とニューヨーク10時(東京23時(夏時間)・東京24時(冬時間))の2つが主要なものです。

オプション評価モデルから算出した本日の想定スポットレンジ

ドル円・本日のシミュレーション（2020年7月6日(月)8時時点）



ドル円・前営業日のシミュレーションと結果（2020年7月3日(金)8時時点）



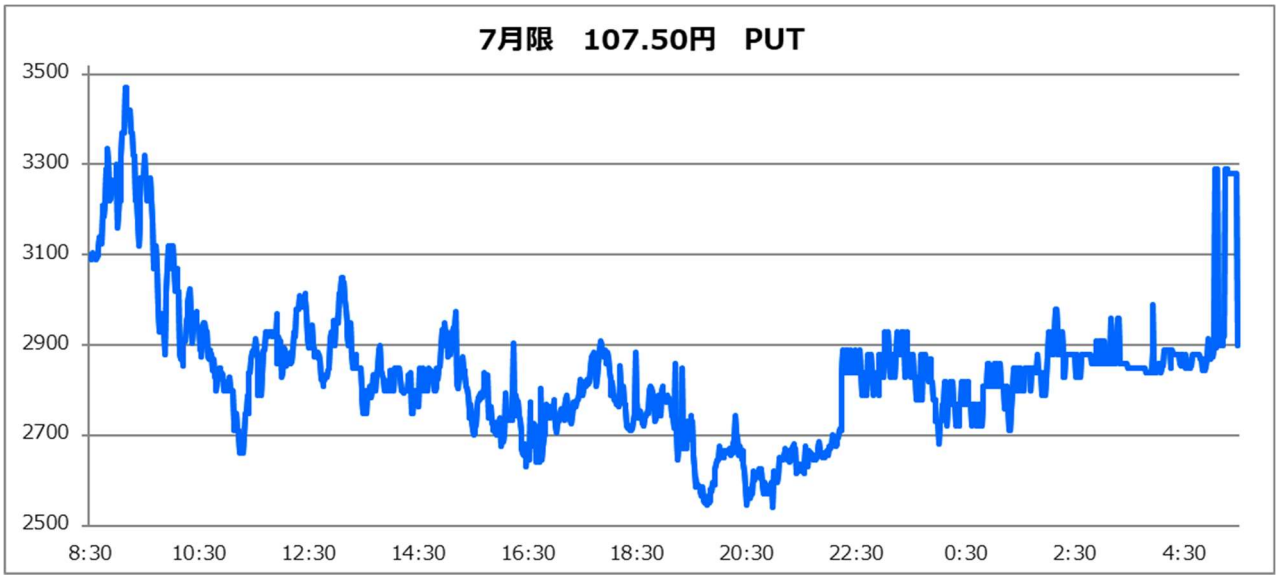
- SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた本日のスポット値動きのシミュレーション結果です。
- 細い線のそれぞれの色が1回のシミュレーション結果で、20回分の結果を記載しています。
- 太い線はそれぞれオプション市場から計算される、スポットがレンジ内に収まる確率を表しています。
- シミュレーション結果は実際のスポットの値動きを保証するものではありません。

オプションFXプレミアム推移

2020年7月3日(金) 営業日取引

PUT				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
108.00	6,195	7,060	5,715	6,375
107.50	3,100	3,520	2,530	2,915
107.00	1,470	1,640	1,065	1,270

※新規購入サイドのプレミアム価格



CALL				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
108.00	1,390	1,450	820	1,130
107.50	3,325	3,400	2,315	2,720
107.00	6,720	6,920	5,610	6,140

※新規購入サイドのプレミアム価格

オプションFX用語集

インプライド・ボラティリティ – インターバンク市場でオプション取引に使用される価格変動率。オプションの価値算出に使用されるパラメーターで、ヒストリカル・ボラティリティが過去の値動きの価格変動率なのに対し、インプライド・ボラティリティは**将来の値動き**を市場参加者が予想した価格変動率になる。

ヒストリカル・ボラティリティ – スポットの**過去の値動き**から計算される価格変動率。将来の価格変動率の予想値であるインプライド・ボラティリティを求める際の参考値となる。インプライド・ボラティリティは将来マーケットクラッシュなどが起きる可能性を含んだリスクプレミアムが乗っているため、ヒストリカル・ボラティリティより高くなりがち。

スマイルカーブ – 同じ期日でもストライクが異なるとインプライド・ボラティリティも異なるという特性を、それぞれのストライク毎に図示したものです。これが示唆することは、例えば、左側の Put サイドのボラティリティが高くなれば、オプション市場はよりスポット下落に注意を払っているということ、逆に Call サイドが高くなればスポットの上昇警戒感の高まりを表します。

リスクリバーサル – リスクリバーサルはもともとオプションの取引手法の名前。一般的には行使期日、想定元本、デルタが同じ OTM(アウト・オブ・ザ・マネー)のコールとプットを反対売買する取引のこと。スポットの値動きが単純なランダムであれば、コールとプットのインプライド・ボラティリティは同じになるはずだが、実際の市場では同じにならない。その価格差の指標として**一定のデルタのコール・ボラティリティからプット・ボラティリティを引いた差分**をリスクリバーサルと呼ぶ。例えば、リスクリバーサルが下方向に動いたとすると、相対的にドルプットのボラティリティが上昇しており、オプション市場参加者はドル円スポットが下落した際に値幅が出やすくなったと考えていることを表している。

ストラドル – **同じストライクのドルプットとドルコールを同時に購入**することで、上下どちらにでも大きく動けば収益が上がるポジションを作ることができ、ストラドルと呼ばれる。将来の価格変動率の予想であるインプライド・ボラティリティが、自分の予想する値動きよりも小さいと思う際にはストラドル購入によって収益を狙う。インターバンクでは逆に同時に売却することもある。

イベント・プレミアム – 米雇用統計などの重要イベントに対して、インプライド・ボラティリティからどの程度の価格変動が織り込まれているかを計算することができる。その**特定イベントによって追加される価格変動**をイベント・プレミアムと呼ぶ。SBI リクイディティ・マーケットではイベント・プレミアムを**日数ベース**で管理している。

デルタ – デルタは**スポットの動き対するオプションの価値変動を表したリスク・パラメーター**。1つのオプションに注目した場合、そのオプションが持つデルタは、基本的にオプションの取引量に対して0%～100%の間の値を取る。例えば、100枚のドルコールオプションを買い、デルタが50%だった場合、50枚分のスポットを持っているのと同じ値動きをすることを表す。

その他の用語解説は HP 上にあるオプション FX の用語一覧をご参照ください。

筆者略歴

鈴木 亮（Ryo Suzuki）

SBIリクイディティ・マーケット株式会社 為替資金本部 本部長

SBIリクイディティ・マーケット株式会社の為替資金本部長として情報発信や新商品開発を通してオプションFXのビジネス拡大に努める。2009年、三菱東京UFJ銀行（現、三菱UFJ銀行）入社、以来約10年間通貨オプショントレーディング業務に従事。約4年間のニューヨーク勤務を経て、ヘッドオプショントレーダー就任。2019年より現職。

バックナンバー

バックナンバーはHP上にあるオプションレポートバックナンバーをご参照ください。

※お客様は、本サービスで表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。

※情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

※本サービスは、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。